

1 9 9 6 1 1 4

ほほえみ

第 5 号

新しい年が明けました。今年もよろしくお願ひします。

阪神大震災から1年、未だ避難生活を強いられている人も多くいます。そんな被災者に「がんばって」と声をかける人は多いと思いますが、被災者にとってこの「がんばって」が負担になっているという声も聞きました。1年頑張ってきてこの上何を頑張れというのか。ということのようです。

苦しい人を前にかける言葉は難しいものがあります。私も以前子供の病気を人に話すとき、「大変ですね」とよく言われました。相手が気遣っていつてくれるのはわかるのですが、人に言えないほどの大変さを味わっている方に見れば、だから頑張っているんだ。そんなに軽々しく言ってほしくない。と反発する気になることもありました。そんな時、私は「がんばってください」と言われる方が素直に受け入れられました。ことばはその時々^の精神状態によって“希望への薬”にもなり、“凶器”にもなります。

子供達には常に“希望への薬”をあげていたい。

今年も「一緒にがんばりましょう」

< 第7回 ほほえみの会 >

日本船舶振興会のボランティア援助金を受けたらどうかという提案が塩川さんからあり、会として申請を出すことにしました。100万円以内で機器や講演会の援助をしてくれるとのことで検討しましたが、この会報を出すのに使うパソコンをお願いすることにしました。

将来的には国内、世界の人達と通信し、情報収集や啓蒙活動にも役立てたいと思い、インターネット対応のものを申請しました。

見積もり総額は35万円です。審査に3ヶ月ほどかかるということです。

河合さんから、「病院の無菌室や医療スタッフの充実を会として積極的に押し進めるべきではないか」との意見がありました。それは会員皆が望むことであり、みんなで検討しました。しかしその運動を会独自でやるにはあまりに壁が高く、他のグループと協力しあってやった方がいいのではないかとということになりました。

すでに「骨髄バンク推進の会」では署名活動を進めており、移植センター構想もあって県に要求を出しているようです。この運動に「ほほえみの会」としても協力していくことにします。次回の会で骨髄バンクについての勉強会をすることにします。

小島さんからは子供が食事を食べないで困っている。臭いがダメだ。との話があり、みんなで体験談を話しあいました。皆さんからは、病気になると味覚が変わる。お弁当にしたら食べてくれたのでやってみたらどうか。内緒でお菓子を差し入れして、食べる約束をした。先生が野菜嫌いでも大きくなるから心配しないでいいといわれ安心した。など意見が出されました。また、いよいよ食べられなくなれば先生から点滴の指示もあるだろうし、あまり神経質にならず大きな気持ちでいいのではないかという話も出ました。

また、移植して1年、スイミングや雪見に行かせたいがどうだろうかとの話が出ました。これに対し、入院前からサッカーをやりたいと言っていた子に今サッカーをやらせているが生き生きしている。好きなことをやらせ明るい表情でいたほうが本人の体も活性化していいのではないか。やりたいことをやらせた方が何かあっても悔やまない。ビクビクして親も子も神経質になることはない。などの意見が出されました。一方で風邪をこじらせて亡くなるケースもあるので注意は必要との声もありました。

総会を春をめどに開くことになりました。

次回は 2月11日(日)12時からです